

刻む会

たより

No.16

1997.11.15

長生炭鉱の「水非常」を

歴史に刻む会

(代表 山口 武信)

宇部市常盤一、一九(陣内)

☎〇八三六(二一)八〇〇三

九七年 運動の夏

事務局 陣内 厚生

一年のうち、夏は「刻む会」の運動にとつて一つの山場を迎える。厳冬の時期に追悼式を挙げるのと対照的に、酷暑の夏には一般市民向けの「現場学習会」(フィールドワーク)を開催するのを恒例としているからである。この夏前後を回顧して「刻む会」周辺のことをご報告したい。

◆かねてより、長生炭鉱の水非常のことが一目で分かるパンフレットが欲しい——そんな要望に答えるべくパンフレット作りに取りかかり、七月中旬に印刷完了。年間予算のこともあり豪華版とはいかず、最初に作ったものとしてはこんなところかもしれない。早速各方面に発送した。

◆七月十九日(土)夕、日本キリスト教団倉敷教会の青年五人が宇部緑橋教会を訪問。長生炭鉱の現地学習がその目的の一つだというので、夕食後に、私が資料に基づ

いて一時間半ほどレクチャーした。翌朝、彼らは緑橋教会の青年たちと長生海岸に赴き、山口代表の説明で水非常を偲んだ。時間が足りない中での学習であったが、彼らの印象は衝撃的だったらしい。

◆韓国の大衆雑誌『新東亜』5月号に掲載された「長生炭鉱水非常特集」を、朴栄銖君が日本語に翻訳してくれた。細かい字でレポート用紙十数枚に及ぶ労作である。本当に有り難い。山口代表に読んでもらったところ、三月に取材を受けたとき話したことと微妙に食い違って報道されているところが散見されるとか。国が違い言語が異なれば、その辺の問題があるのかもしれない。かつて強制労働に従事した人たちが、言葉の壁のゆえに、逆の立場で真意が伝えられず、無念の思いをしたのかもしれないことに思いを馳せる。

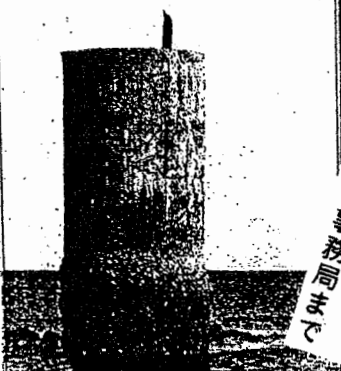
◆「第5回中国地方の強制連行・強制労働を考える研究交流集会」が七月二十六日(土)〜二十七日(日)松江で開かれ、わが会よりメンバー三人が出席。出来上がったパンフレットも忘れず持参してもらった。ちょうど台風の影響来予報と重なり、出席し

た山口代表、大野・山内さん夫妻とも不安をおしての旅だったらしい。ご苦労さん。

◆大阪府は戦後五〇年を記念して一七ヶ所の戦争の傷跡の地に「記念銘板」を設置した。当初は三〇ヶ所と言っていたが減ってしまったらしい。その銘板に刻む碑文をめぐって、各地で府側と市民運動団体との間に長い折衝が続き、ようやく決着していたいきさつがある。いずれにしても行政側が戦争の傷跡を記念し、かつての国策の誤りを認め謝罪すべきはすることを、碑文に顕すべきである。宇部市でもこれを考えてもらいたいのので、過日大阪の資料を市役所に提出した。ぜひこれを積極的に受けとめて「水非常」に関わってほしいものだ。

あなたは知っていますか。

海に沈んだ炭鉱



長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

事務局 宇部市常盤町1-1-9 (陣内方)
☎10036-21-8003 内21-7274

郵便振替 91590-7-32405

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会 各所

◆八月二十日(火)、予定していた夏のメイン行事「《海に沈んだ炭鉱》フィールドワーク」を開催。今年で三回目。いつものことながら、何人ぐらゐの参加者があるかを気にしながら海岸へ行くと、なんと大潮の満潮。海岸線の砂浜は全く隠れていたため、やむを得ず海岸道路にテントを張った。午前九時半、西光寺に集まった人は約四〇名。市内の小中学校に案内はしたが、ほとんど反応はなく、ただある学校から三名の教師が来て下さったのには意を強くした。総じて子供が少なかつたのが残念である。内容は、位牌を目の前にして山口代表による概要説明。次いで島さん(山工学部名誉教授)が宇部炭田の歴史と長生炭鉱のデータをOHPを用いて分かりやすく講義。最後は紙芝居『アボジは海の底』の上演を山内さんが担当。このあと海岸へ移り炎暑の現場でピーヤの説明、そして参加者全員による献花をもって終了した。今回も昨年並の規模に止まったが、もっともっと多くの市民に参加して頂きたいことは言うまでもない。

宇部の長生炭鉱

水没事故語り継ごう

18人が「刻む会」が学習
犠牲に

戦時中の一九四二年、宇部市の長生炭鉱で起きた水没事故を語り継ぐ「長生炭鉱に刻む会」(山口武信代表)が呼びかけた「海に沈んだ炭鉱」フィールドワークが二十日、ついに開催。同会と、歴史を掘りよめる事故を広く知ってもらうための運動を強める

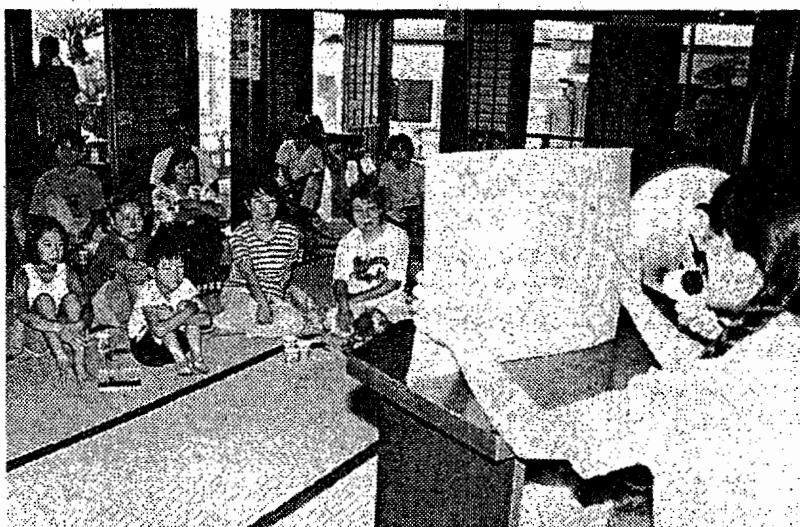
中 国 県 民 (8/21)

海に沈んだ炭鉱学ぶ

宇部市民団体の手作り紙芝居で解説

山口

「海に沈んだ炭鉱」をテーマにした学習会が二十日、一九四二年に水没事故



長生炭鉱の水没事故をテーマにした学習会で、手作り紙芝居を見る参加者(宇部市の西光寺)

が起きた宇部市西岐波の旧で三回目の学習会には、約長生炭鉱や近くの西光寺三十人の親子連れが参加して開かれた。この事故を記した。

録する活動が続いている。この事故では、百八十三市民グループの主催。今年人が犠牲になり、大半はいた。

この後、参加者は海底に延びた坑道の遺構(換気口)を望む長生海岸に会場を移し、花を供えて犠牲者のめい福を祈った。

友達やその母親と一緒に参加した同市西宇部、小学四年福島希ちゃん(九)は「たくさんの方が死んだ悲しい出来事が、紙芝居を見てよく分かった」と話して

朝鮮半島の出身者だった、とされている。犠牲者の位はいが安置されている西光寺で、市民グループ代表の山口武信さん(六六)が「この炭鉱では労働者の七割が朝鮮半島から連れてこられた人たちだった」と前置きして説明。続いて、メンバーが事故を題材にした手作り紙芝居「アボジ(お父さん)は海の底」を披露した。

伝えたい日本の歴史

長年の夢、土地入手なるか

追悼碑建立地問題について

山口 武信

長年「刻む会」の目的の一つになっている追悼碑建立場所について頼尊家との話し合いは当面行き詰まり状態なので、坑口の近くのピーヤの見える場所で適当な土地を探すことになった。

碑建立地取得については、宇部市も協力すると約束したので、宇部市に長生炭鉱近所の土地の図面などの資料があれば見せてくれるように要請したが、市が出てきたのはゼンリンの地図の複写一枚のみで、他にはないと言っていた。

追悼碑の候補地

《A地》

山林番地1451-12 588㎡

今年追悼式を行った砂地に接しておりピーヤの見える大変良い位置にある。

登記簿上の名義は既に亡くなっている人になっているので、その相続人を探す必要があった。長生近くに名義人と同姓の人が多いのでそれらの家に当たって相続人を尋ねることになり、9月末長生に出かけた。幸いに相続人の一人である下関居住の男性を知ることができた。10月初め下関で彼に会うことができた。この時は土地を売る意思はあるようで、また話し合おうということで別れた。彼らは7人兄弟で3人は亡くなっているという話であった。

《B地》

山林番地1451-22 75㎡

この場所は今は家が一軒あり人が居住しているが、その海岸側に当たる。

幅5m長さ15m位の細長い土地で、諸有権者は神奈川県に在住。面積は手頃であるがA地に較べれば少し位置は悪い。

そのため法務局で調べることになり二度出かけた。ゼンリンの地図の地番から登記簿上の権利移転の状況と地図を複写してきたが、肝心の場所が山番になっているので空白になっていた。

このような状態なので、長生の地元の方に相談して必要場所の山林地番と面積の表示された地図の写しをいただいた。この時点、例会で二つの候補地を選んで山内さんに宇部法務局で登記簿を調べてもらった。調査対象を二か所にして地番よりA地とB地とする。

土地を入手するためには、まず地価が判らねばならぬ。市役所に行った。市が口約束であっても取得に協力すると言っ

ていると税務課に言い、路線価を見せてもらった。このあたりは二四七〇〇円というが評価額はその価格に一〇分の七を掛けたものだそうである。

これらの調査を一応終わって地元の方にいろいろ尋ねているうちに、黒崎の岬の三坑の坑口から本坑まで海岸の総てが炭車用のトロッキ道であったために頼尊家のものであることがわかった。ただし現在中断されている道路が完成すれば、道路に吸収されるので大丈夫と思われる。なお、土地の人々には近く道路工事が再開されるらしい話が市から通知されたそうである。



旧長生炭鉱水没事故56周年

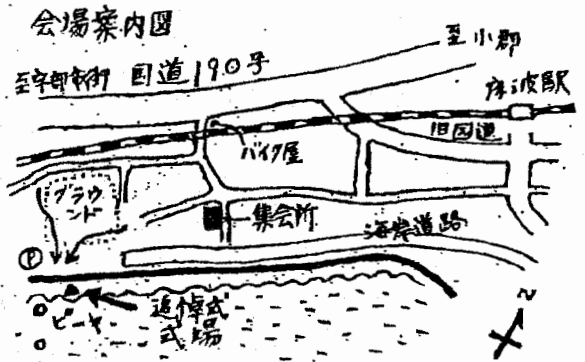
追悼式

日時 98年2月1日(日)

午後2時より

場所 宇部市西岐波 長生海岸

(床波駅下車10分)



再び韓国から遺族を迎えるにあたって 遺族招へいカンパのお願い

一九四二年二月三日、宇部市西岐波の長生炭鉱で水没事故が起こり、一八三名(？)が海底に閉じこめられたまま亡くなりました。その大部分が故郷を離れ、日本の労働力として連れて来られた朝鮮の人々でした。

我が国で最も多数の朝鮮人が一瞬にして命を奪われたこの事故のもつ意味の大きさに注目し、私たちが「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」を発足させたのは、一九九一年の三月のことでした。

この会は①長生炭鉱のピーヤの保存、②追悼碑の建立、③事故の記録の発掘を目的として活動してきましたが、同時に一九九三年より毎年追悼式を行って参りました。来年も五〇一〇名のご遺族を招いて、二月一日(日)の午後長生海岸にて追悼式及びご遺族との交流集会を計画しております。このために約一〇〇万円の費用が必要となりますので、今年も皆様の支援カンパをお願い致します。

長年にわたり目的のひとつである追悼碑の建立については、見通しが立たないまま経過しましたが、ここに来てピーヤの見える土地の入手の可能性が少し見えてきました。もちろん土地購入費用等、今後なお問題の多いことと思いますが、少なくとも希望が見え始め、何とか目的実現のため活動を一層盛り上げていきたいと思っております。なにとぞ宜しくご協力をお願い申し上げます。(会計担当・島)

こんにちは。
こんばんは。

안녕하세요?
안녕하십니까?

안녕하세요? 안니ョン/ハセヨ

はい。 네. ネー
いいえ. 아니요. アニオ

ありがとうございます。 감사합니다. カムサ/ハムニダ

さようなら。(見送る時) 안녕히 가십시오. アンニョンヒ/ガシプシオ

さようなら。(自分が去る時) 안녕히 계십시오. アンニョンヒ/ゲシプシオ

はじめまして。 처음 뵙겠습니다. チョウム/ベプケッ/スムニダ

すみません。 미안합니다. ミアン/ハムニダ

よろしくお願いします。 잘 부탁드립니다. チャル/ブタック/ハムニダ

わかりました。 알았습니다. アラッ/スムニダ

よくわかりません。 잘 모르겠습니다. チャル/モルゲッ/スムニダ

私は〇〇です。 저는 〇〇입니다. チョヌン/〇〇イムニダ

